



駒本の力

駒本小学校（家）

教育活動紹介便り

校長 田中 克昌

NO. 16

平成27年12月25日

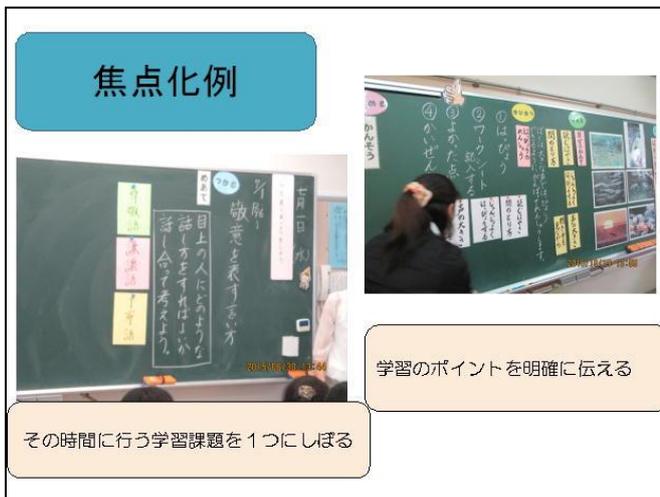
「どの子ども伸ばす、駒本の教育」 5

校長 田中 克昌

【焦点化の取組】

焦点化の取組とは、簡単に言うと絞り込むということで、次の3つがあります。

- ①学習課題の焦点化（1時間に1つの学習課題）
- ②指示や説明の焦点化（端的・具体的な指示や説明）
- ③学習ポイントの焦点化（学習の視点を示す）



①学習課題の焦点化

まずは、1時間の学習課題を一つに絞ります。いくつもの学習課題を提示してしまうと、学習が分散してしまい、その時間のメインは何であったのかがぼやけてしまいます。1時間貫き通せる課題を一つ提示することです。この貫き通せるということも大切な考え方です。また、どのような学習課題を設定するのかというのも、とても大切な事柄です。現在、先生方に、提示している課題の条件は、児童の意欲を喚

起する課題、具体性のある課題、複数の考えがもてる課題、思考過程を重視した課題と4つの条件です。この4つの条件を毎時間の準備において考えてくれています。

②指示や説明の焦点化

指示や説明においてその内容を焦点化することは、児童の理解を確実なものとするためにはとても重要です。私たち教員は、どうしても音声言語に頼り、同時に複数の指示や説明を行い、さらに、何度も同じようなことを言うてしまうことが多いようです。これでは、子どもたちは先生が何を求めているのか分からなくなってしまいます。指示は短く一回に一つ。長い指示や説明をしない。複数の活動の指示を同時にしない。この3つことを意識して授業を行っていくと、ずいぶんと違ってきます。またここに視覚情報を加味すると効果的です。視覚情報によって視覚と聴覚の2つの感覚を使っての情報提示となりますので、とても分かりやすくなります。さらに、板書やICT機器を活用した視覚情報を提示することで、指示や説明の内容が絞り込まれ、焦点化された指示や説明を行うことができますようになります。

③学習ポイントの焦点化

学習のポイントの焦点化もとても重要です。「〇〇の文を工夫して音読しましょう」という課題を提示しようと考えたとき、『工夫』ってどうするの？という疑問がわいてきま

す。例えば、声の大きさ、抑揚、感情を込めて等の『工夫』の視点が明確になっていて、それが提示されてこそ、工夫して音読しよう、という問いかけが課題となり得るのです。

鼓笛隊の引継ぎ式にみる、恩送り



12月17日に鼓笛隊の引継ぎ式が行われました。当日は、50名以上の保護者の皆様にもご参観いただくことができました。駒本小では、開校以来の伝統として高学年による鼓笛隊の活動が特色ある教育活動として根付いています。鼓笛隊は、月曜日の全校朝会の後、児童が教室に戻るときの演奏を日常的な活動としています。さらに、本年は、運動会、あじさい祭り、白山祭り、連合音楽会、ブックフェアと5回の発表の場がありました。これらの活動を支えているのが、パート別に行われる朝練習です。音楽教員やフラッグ担当の教員が日々、子どもたちのために7時45分からの朝練習の指導に精力的に取り組んでいます。

引継ぎ式は、6年生から5年生に指揮棒を、担当していた楽器を4年生に引き継ぐ大切な式です。6年生の子どもたちからすると、自分たちも引き継いできた伝統の鼓笛隊の活動を5年生、4年生に、「これからもよろしくお願いいたします。頑張ってください」という意味が込められています。また、5年生にとっては今度は自分たちが先頭に立って頑張ります、という決意の意味があります。さらに、4年生にとっては、今までお世話になった6年生から楽器を引き継ぎ、今度は私たちが在校生のために頑張ります、という意味があります。

このように、子どもたちは自分たちが受けた恩を次に送っていくのです。このことを、全校朝会で「恩送り」という言葉で紹介しました。自分が受けた恩は、その人に返すことができなくても、必ず次の人に返すことができるし、次の人に返すことで、人と人がつながっていくのですよ、という話です。例として、日本とトルコの交流史の中にある「恩送り」の話をしました。明治23年にトルコの船エルトゥールル号が台風で沈没したときに、和歌山の紀伊大島の人たちが献身的に救命を行い、69名のトルコ人を助けました。エルトゥールル号の遭難から95年を経た昭和60年、トルコの人たちは、イラン・イラク戦争の中、テヘランに取り残された215名の邦人をトルコ航空機で救出してくれたのです。

日本の先人たちによるトルコ人遭難者への献身在、トルコの人たちの胸に「恩」として刻まれ、後世に「送られてきた」のです。このように、私たちは様々な人から受けた恩をしっかりと心に刻み、いつかどこかで、その恩をだれかにお返ししていきたいですね。子どもたちの鼓笛隊の引継ぎ式を通して、こんなことを考えました。

3学期になると、今度は6年生の子どもたちがこの「恩送り」の心で、お世話になった学校や在校生の子どもたちに、恩を送ってくれることと信じています。